鈴木商店ゆかりのまち歩き

2023 年 3 月 5 日（日）　13:00～

主催：神戸市

協力：鈴木商店記念館

「鈴木商店ゆかりのまち歩き」ルートガイド」

＜はじめに＞

【神戸外国人居留地】

・慶応 3(1868)年 1 月 1 日～明治 32(1899)年 7 月 16 日まで設けられた。「神戸居留地」とも略称される。

・広さ約 78,000 坪（258,000 ㎡）、126 区画に分割されている。

・一定の行政権、財政権等の治外法権が認められ、居留外国人を中心に組織された自治機構「**居留地会議**」によって運営された。

・居留外国人には、居留地内の土地は永代借地として貸与され、競売によって被貸与者が決定された。

・明治 3,4(1871)年当時の居留外国人は、イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、清の 5 か国、400 人余り。

・日本人は、居留地外で輸出品を売ったり、輸入品を買うことが認められず、外国人商人を介した“居留地貿易“、“商館貿易“が行われた。

・外国人商人へ商品を売り込む者を“**売込商**”、外国人商人から商品を買い入れる者を“**引取商**”と呼ばれた。

・“洋糖引取商”・鈴木商店と取引関係があった商館は、

○ジャーディン・マセソン商会（イギリス系）	洋糖	居留地 No.107,108,58,83
○オットー・ライマース商会（ドイツ系）	樟脳	居留地 No.8
○イリス商会（ドイツ系）	魚油	居留地 No.12
○フィロンセー商会（イギリス系）	甜菜糖	居留地 No.118
○シモン・エバース商会（ドイツ系）	樟脳	居留地 No.101,102
○バターフィールド＆スワイア商会（イギリス系）	洋糖	居留地 No.103
○ラスペ商会（ドイツ系）	薄荷	居留地 No.77,91
○ブラウン商会（イギリス系）	洋糖	居留地 No.26
○スミス・ベーカー商会（アメリカ系）	樟脳	居留地 No.3,4,44,45

【1】旧神戸外国人居留地順路

97→92→91→77→101→102→103→118→108→107→105→12→10→83→13→8→15→45→44→38→4→3

1.No.97（97 番館）　ヘリア商会　（現・神戸市役所 4 号館・危機管理センター）

ﾍﾘｱ商会跡プレート

神戸市役所 4 号館入口

イギリス系商館。代表フレデリック・ヘリア(Frederic Hellyer)

江戸末期、土佐藩でお雇い英語教師を務めた後、長崎で親族のオルト商会を経て明治 14 年、神戸居留地に進出。日本から茶の輸出を手掛け、97 番館に茶の加工場（再加熱）を備えていた。（再加熱のための煉瓦積みのカマドや建物の基礎部分が発掘された）

2.No.92(92 番館)　ヘリア商会　（現・神戸ルミナスホテル三宮）

今日、静岡で茶の輸出を手掛ける有限会社ヘリヤ商会は、F.ヘリヤ（ヘリア）の子孫が経営する専門商社。

3.No.91,&77（91 番館、77 番館）　ラスペ商会　（現在建て替え工事中）

ドイツ系商館。我国の特産品の**薄荷**に強い関心を示したことから、鈴木商店創業期の要品目の一つとなった。

日本商業開立当時の
エミル・ポップ

鈴木商店は、明治 42(1909)年、同商会出身のエミール・ポップと合弁で「**日本商業**」を設立。その後、鈴木商店の全額出資となり、鈴木本体で扱いの少ない品目を中心に事業展開を進めた。　岡本良太郎、井田亦吉、森衆郎は、同商会出身者。

4.No.101&102（101 番館、102 番館）　シモン・エバース商会（現在更地）

　ドイツ系商館。金子直吉が**樟脳**の空売り（先物取引）で大失敗し、同商会のほかの商館ともトラブルに発展。同商会とは“ハラキリ騒動”の末、円満解決に持ち込んだ。これを機にオットー・ライマース商会を始め全ての商館との問題が解決した。

5.No.103(103 番館）　バターフィールド&スワイア商会　（現・建泰ビル、テナント募集中）

　イギリス系商館。現在のスワイヤーグループは、海運、空運、貿易、不動産を運営する香港に本部を置く香港有数の財閥企業。「太古(Taikoo)」の名称を使用する。

1816 年ジョン・スワイヤーが英・リバプールで“スワイヤ商会”を創業。
1866 年、R.S.バターフィールドと共同経営の“バターフィールド＆スワイヤ商会”を設立。
1881 年、太古砂糖を開業

　明治 20(1887)年頃、居留地に支店設置。
創業期の鈴木商店と藤田商店は、同商会から香港車糖の主要引取商となった。

6.No.118　（118 番館）　フィロンセー商会　（現・神戸ポート郵便局）

　イギリス系商館。
バターフィールド＆スワイア糖の輸入代理店。
鈴木商店、藤田商店が主な引取先。

7.No.107、108（107 番館、108 番館）　ジャーディン・マセソン商会　（現・神戸・甲陽音楽＆ダンス専門学校（107）、パタゴニア神戸が出店するダイヤ DYRE108（108））

　ジャーディン・マセソン商会が神戸居留地に進出したのは、明治初期のこと。当初は、ブラウン商会（26 番館）を通じて、ジャーディン・マセソン糖を日本に輸入していたが、やがてジャーディン・マセソンは、直接神戸に進出、明治 15 年には、107,108 番館に店を

構えていた。明治 20 年代には業容の拡大に伴い 58 番館に移転、さらに明治 37,8 年頃には、83 番館に拠点を移している。鈴木商店は、藤田助七商店と共に、同商会から洋糖（中華火車糖局糖）の引取を始めている。

107 番館跡

108 番館跡

8.No.105（105 番館）　キルビー商会　（現・ライオンズタワー神戸居留地 ）

居留地開設時　キルビー商会　（13,14,23,24,105 番館）
明治 6 年　イー・シ・キルベ
明治 19 年　ポールヘーネマン
明治 38 年　デラカンプ

9.No.12（12 番館）　イリス商会　（現・NTT 西日本神戸中央ビル）

ドイツ系商館。安政 5(1859)年に横浜、長崎（出島）で創業したクニフラー商会が前身。明治 13(1880)年、共同経営者だったカール・イリスが経営権を引継ぎ、イリス商会と改称。

明治 23(1890)年、カール・イリスは、ドイツに戻り、ハンブルグに本社を移した。

鈴木商店は、イリス商会からドイツ甜菜糖を輸入している。
後年、鈴木商店に入社した同商会出身者には、初代ロンドン支店長・芳川荀之助、香川潔がいる。

今日の（株）イリス（東京）は、イリス商会の後身としてドイツからの輸入機械の専門商社で、現存する在日外資系企業として最古の歴史を誇る。余談ながら、イリス商会は、皇居二重橋の正門鉄橋の設計・施工した会社でもある。

10.No.10（10 番館）　グッチョー商会 / レンス商会 / 鈴木商店海岸通本店（現・デビスビル＆ポルシェセンター神戸）

元々は、居留地最初の建物として**グッチョー商会**（ドイツ系）の倉庫として建設された。その後同じドイツ系の **H.A レンス商会**が使用。居留地返還後、大正 7(1918)年 8 月 12 日、米騒動による焼き打ちで東川崎町の本店を焼失した鈴木商店は、大正 9(1920)年より昭和 2(1927)年まで、“海岸通本店”としていた。

現在の旧 10 番館跡は、アウトドア商品の LL ビーンが入居するデビスビル（デビスパーキング）の約半分部分とポルシェセンター神戸が建つ部分に相当する。

11.No.83（83 番館）　ジャーディン・マセソン商会（現・三宮センチュリービル）

香港に拠点を置くイギリス系の商館。明治 15(1882)年には、**107&108 番館**に　店を構えていたが、業務拡大に伴い明治 20 年代には **58 番館**に移転した後、明治 37,8 年頃、**83 番館**に移転。

鈴木商店は、藤田助七商店と共に、同商会から洋糖（中華火車糖局糖）の引取を始めていた。

現在の三宮センチュリービルの前には、居留地地図と同商会跡のモニュメントが残されている。また、同商会の建物の一部（レンガ造りの塀と門柱）は、北野（中央区北野町）の一角に移築されている。

ｼﾞｬｰﾃﾞｨﾝ･ﾏｾｿﾝ商会跡碑

北野に移築された門柱・同商会の門柱説明プレート
（明治 37,38 年頃の建造、重要な文化遺産と表示）

12.No.13（13 番館） キルビー商会（イギリス系）、旧・横浜正金銀行神戸支店（現・神戸市立博物館）

居留地最初の競売によって借地権を得たのは、イギリス系のキルビー商会。13 番のほか、**14,23,24,105** の区画を取得。

E.C キルビーは、慶応元(1865)年来日、横浜で雑貨、マッチの輸入を始め、後に神戸へ移り居留地を入手し、キルビー商会設立。貿易の他、造船分野に着目し、明治 11(1878)年、小野浜造船所設立するもその後経営破綻。

昭和 10(1935)年、横浜正金銀行神戸支店として竣工。昭和 57(1982)年、神戸市立博物館開館。

13. No.8（8 番館） オットー・ライマース商会 （現・神港ビルヂング）

ドイツ系商館。鈴木商店は、**樟脳**の“先物の売約”（旗売り＝空売り）で大損が発生。同じドイツ系商館のシモン・エバース商会との間で解決したことから、オットー・ライマースその他の商館とのトラブルを全て解決したという逸話が残されている。

現在の“神港ビルヂング”は、経済産業省の認定する「**近代産業遺産**」に指定されている。昭和 14(1939)年、川崎汽船本社として竣工。現在も川崎汽船の登記上の本店となっている。アールデコ調の塔屋が見どころ。

14. No.15（15 番館） （現：旧居留地十五番館）

鈴木商店とは関係は無いが、旧居留地に唯一現存する居留地時代（1868 年～1899 年）の建築物で、**国の重要文化財**。

明治元(1867)年、フランス人・ガンダベルが同区画を落札、明治 3 年ガンダーバート商会でレストランを開業、明治 4 年**ホテル・ド・コロニー**に転業の後、明治 8 年**アスターハウスホテル**に変わるも明治 11 年焼失。

明治 14 年、**アメリカ合衆国領事館**を経て居留地返還後、**江商**（現・兼松）の所有。

昭和 41(1966)年、**ノザワ**（神戸の建築材料メーカー）の所有となるも阪神・淡路大震災により全壊（平成 7(1995)年）、その後平成 10(1998)年復元。

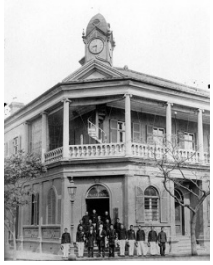
15. No.44,45 (44 番館、45 番館） スミス・ベーカー商会 （現・神戸御幸ビル（44）,THE FORTY FIFTH(45)

米系の商館。
明治 38(1905)年、倉庫として所有。

44 番館神戸御幸ビル、 45th ビル

16. No.38 (38 番館） 居留地行事局（現・大丸神戸店）

居留地の管理・運営を行う自治組織。各国領事、兵庫県知事、登録外国人（3 名以下）より構成される「居留地会議」の常任委員会「**行事局**」の他、警察、消防、留置所が置かれた。



旧ナショナルシティバンク 居留地時代の行事局

昭和 4(1929)年、ナショナルシティバンクオブニューヨーク（現・シティバンク）神戸支店として新築。 昭和 30 年代には、川崎重工業・本社ビルとして使用されていた。

17. No.3 ,4 (3 番館,4 番館） スミス・ベーカー商会 （現・海岸ビルディング(No.3）,新明海ビル（N0.4））

米国系商館。スミスとベーカーの共同出資で出発。居留地最初の競売により No.3&4 区画を取得、石造倉庫が建てられた。明治 4(1871)年進出。

保険会社代理店のほか、茶・**樟脳**などの輸出、陶器、石油の輸入を手掛けた。明治末期までこの地区で営業活動を行い、

4 番館（新明海ビル） 3 番館（海岸ビル）

3 番館は大正に入り、三井物産（神戸支店）に譲渡。スミス・ベーカーは、44&45 番館に移転。

3 番館は、大正 7(1918)年、河合浩蔵の設計による 4 階建て建物に建て替えられた。(海岸ビル) 其の後建て替えられた現・海岸ビルの 1-4Ｆ部分は、国登録有形文化財に指定されている。

【2】<u>栄町通鈴木商店</u>

＜鈴木商店の本店移転推移＞

① 弁天浜創業（明治 7(1874)年）→②栄町通 4 丁目（？～明治 37(1904)年）→③栄町通 3 丁目（明治 37(1904)年～大正 5(1916)年）→④東川崎町（大正 5(1916)年～大正 7(1918)年）→⑤海岸通（大正 9(1920)年～昭和 2(1927)年）

本日の“鈴木商店ゆかりのまち歩き”では、ルートの関係上、栄町通 3 丁目本店跡、4 丁目本店跡、弁天浜、東川崎町本店跡の順に巡ってまいります。

1.<u>鈴木商店栄通 3 丁目本店跡　（現・プロシード神戸元町&SEC ビル（旧・コスモコート栄町通））</u>

神戸･栄町通 4 丁目に拠点を設けた鈴木商店は明治　35(1902)年、個人企業から合名会社に改組して「合名会社　鈴木商店」が誕生する。代表社員・鈴木よね、社員・金子直吉、柳田富士松の布陣で鈴木商店が始動する。合名会社を機に本店社屋を栄町通 3 丁目に移転した(明治 37(1904)年)。

元々は横浜正金銀行・神戸支店として建てられた建物（明治 13(1880)年)で、レンガ造り 2 階建ての洋風建築。(「松方・金子物語」より）その後同建物は、三菱合資（銀行部）（明治 30(1897)年 4 月)、鴻池銀行・神戸支店（明治 33(1900)年 12 月）を経て、明治 37(1904)年 4 月 1 日より鈴木商店の新社屋となった。

鈴木商店は、東川崎町に移るまでここを拠点とした。なお、この建物は昭和 20(1945)年 5 月、戦災により焼失した。

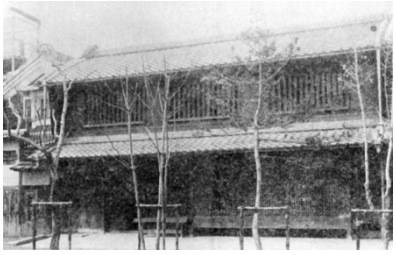
2.<u>三井銀行神戸支店跡（旧・第一勧業銀行神戸支店）（現・ライオンズタワー神戸元町）</u>

銀行、証券会社、保険会社の洋風で重厚な建築が軒を連ね「東洋のウォール街」と呼ばれる程の繁栄を誇った

栄町通の中で、ひと際目立った「三井銀行神戸支店」の建物は、大正 5(1916)年、長野宇平治設計によるイオニア式列柱が特徴で、“神戸のパルテノン神殿”とも呼ばれた。

同建物は、その後第一勧業銀行神戸支店となったが、阪神淡路大震災により倒壊、その跡地に、2009 年 9 月、大京・オリックス不動産により「ライオンズタワー神戸元町」（33 階建て）が建てられた。三井銀行時代のイオニア式列柱をイメージした地上部分をファサードに蘇らせた。

3. 鈴木商店栄町通 4 丁目本店跡（現・海岸通 4 丁目、旧乙仲通り）



神戸・弁天浜で創業した鈴木商店が、栄町通に進出し、明治 35(1902)年、合資会社に改組するまでの個人商店時代の拠点を置いたのが栄町通 4 丁目 45。しかし栄町通の表通りでなく、乙仲等、海運業者が多く軒を連ねた“乙仲通り”の一角であった。

「乙仲通り」は、神戸市中央区の“栄町通”と“海岸通”の間を東西に通っている約８００ｍの通り。現在の乙仲通りには神戸中華街やポートタワー、神戸海洋博物館などがある海岸エリアに近く 270 件のお洒落な店や昔ながらのビルヂング、カフェ、アトリアなどがある。

4. 鈴木商店東川崎町本店跡　（現・パークホームズ神戸ザ・レジデンス）

神戸栄町通を拠点に業容が拡大した鈴木商店は大正 5(1916)年、後藤回漕店・後藤勝造が東川崎町に増設したみかどホテル新館を買収し、新本社屋とした。（大正 5 年 2 月 6 日付移転広告　神戸又新日報）

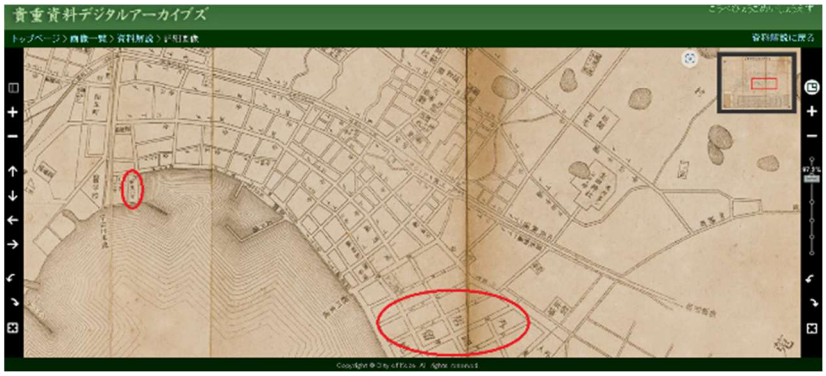
みかどホテルは、建築家・河合浩蔵の設計によるコロニアル風の瀟洒な木造 3 階建ての建物で、大正 7(1918)年の米騒動による焼き打ち事件で焼失するまで、鈴木商店の本店として鈴木の飛躍の舞台となった。

鈴木商店跡地に建つパークホームズ

東川崎町の鈴木商店

5. 弁天浜・創業時の鈴木商店

明治 7(1874)年、宇治川河口の“弁天浜”に洋糖引取商・鈴木商店として創業。



6. 鈴木商店モニュメント

鈴木商店記念館は港町神戸繁栄の基礎の一端を築いた鈴木商店の歴史的価値を後世に伝えるため、2017 年、神戸開港 150 年を記念して鈴木商店発祥の地でもある神戸・栄町通 7 丁目（旧・東川崎町）に「鈴木商店モニュメント」を建立しました。7 月 7 日（金）には除幕式および贈呈式を執り行い、神戸市に寄贈しました。

モニュメントの説明文は、神戸外国人居留地研究会理事長で元・神戸大学副学長を務められた神木哲男先生に検証頂きました。また、モニュメントの制作は、徳島の陶板名画美術館で有名な「大塚国際美術館」を運営する大塚製薬グループの「大塚オーミ陶業」に依頼しました。　　完